

防除柵(金網)の侵入危険箇所と侵入防止の手引き

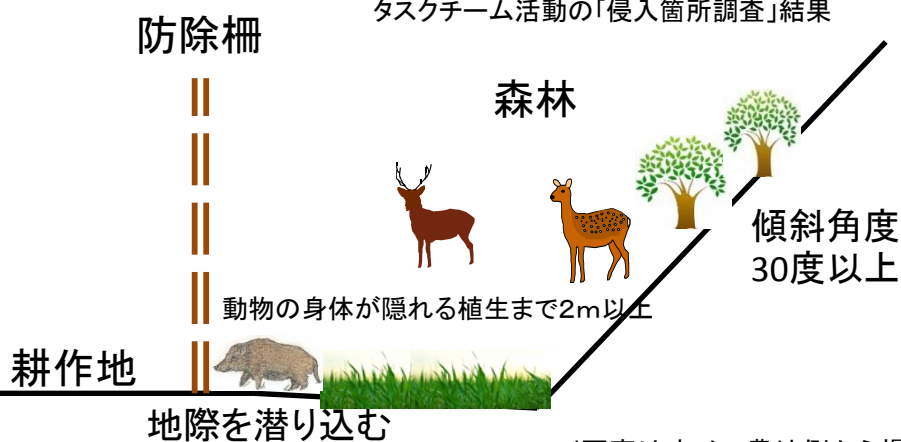
防除柵を最適な状態に保って被害の減少！！

1 侵入危険箇所と侵入方法

point

- * シカ・イノシシは柵の高さに関わらず、地際を潜り込むことが多い。
- * 侵入場所は、森林に面しており、傾斜は30度以上のことが多い。
- * 身体を隠せる茂みから離れていても、侵入する場合がある。

タスクチーム活動の「侵入箇所調査」結果



(写真はすべて農地側から撮影)



森林内の潜り込み



柵の勾配が変化する場所で潜り込み



草地の水路から潜り込み



森林から潜り込み(水路状)



森林内の潜り込みと押し広げ



植生の開けた場所で潜り込み



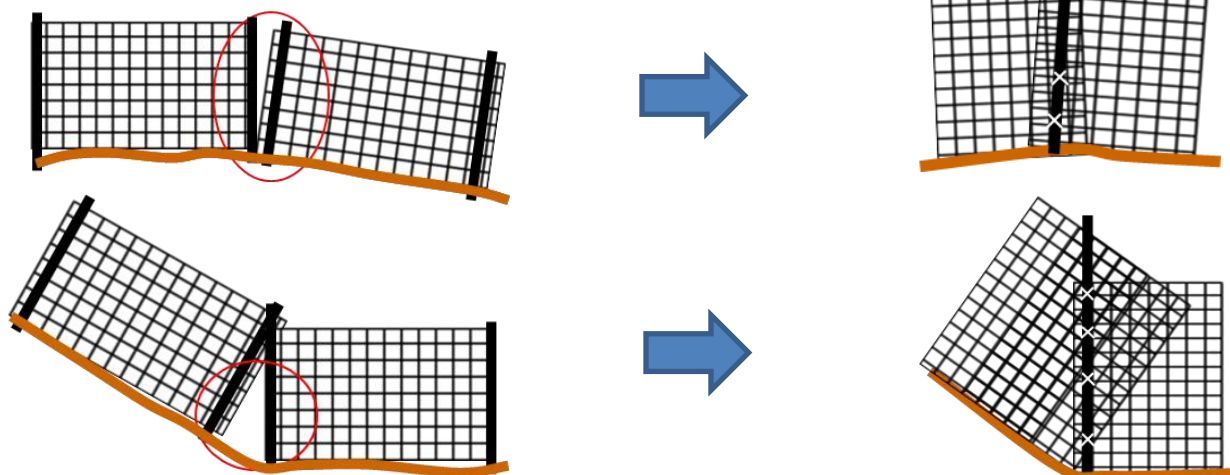
川を渡って潜り込み

2 侵入防止はスキ間対策が肝心！

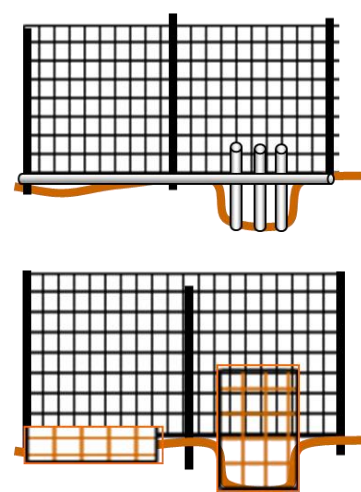
point

- * スキ間を、作らない設置、残さない点検・管理！
- * 地形の変化する場所は、スキ間ができやすい。
- * 凹地や水路でスキ間が生まれる。
- * 「まあー、いいか！」の気持ちのスキは、柵のスキ間！
- * 潜り込みを防ぐ補強。

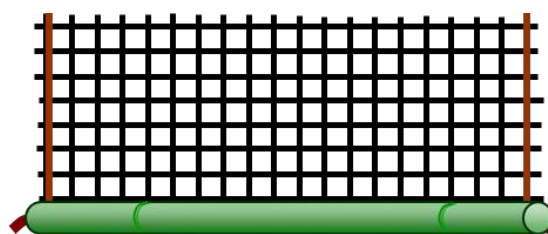
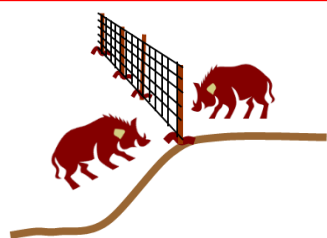
惜しみなく、スキ間なく 重ねる。



金属パイプ、端材などを活用して補強。



アンカー、丸太、金属パイプなどを下部に固定して、補強。潜り込みを防止する。

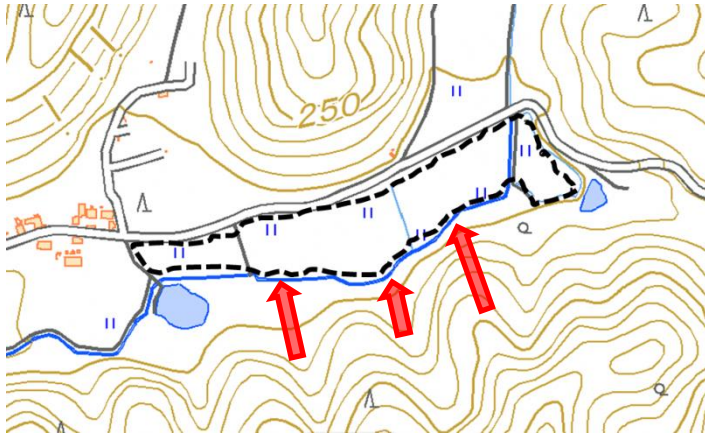


トタン板等を使う場合も、持ち上げられないように、しっかり押さえる。

3 水の流れる場所に注意！

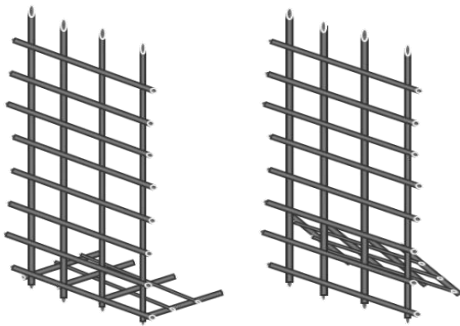
point

- * シカ・イノシシは、川を渡って侵入することがある。
- * 水の流れは野生動物も通路に利用。
- * 水路のソバは侵入される危険度が高い。(←)
- * 柵が水路を横断する場所は侵入される危険度が高い。

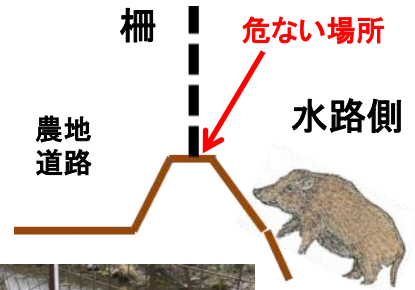


水路のソバは侵入される危険度が高い

補強による潜り込み防止対策



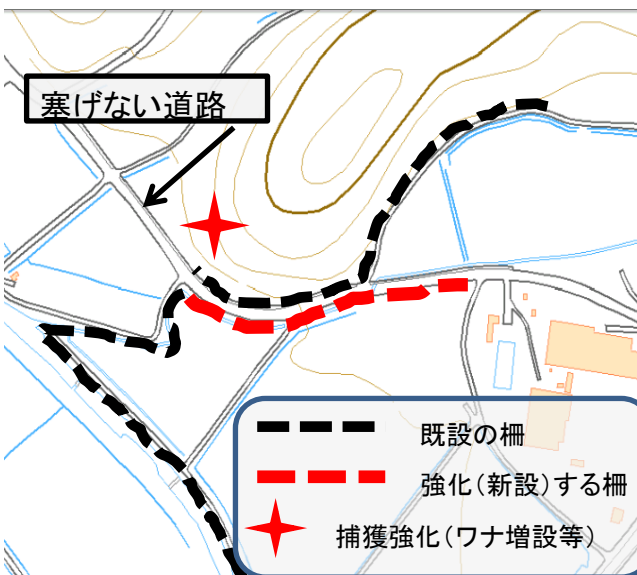
動物側の下部に金網を追加、固定して潜り込みを防止



4 道路など塞げない場所の防除力強化！

point

- * 柵の強化。個別柵の新設や柵の延長。
- * 捕獲の強化。防除柵で塞げない場所の付近で、ワナの架設数を増やす。
- * 隣接集落との連携。



箱ワナなどによる地域ぐるみの捕獲の強化

5 適切な維持管理が、被害減少への道！

農家組合等の防除柵の管理状況について

116箇所の農家組合等へアンケート調査。有効回答(返信)98件、84%。

*** 管理の重要性を十分理解し、役員等を中心に点検や管理・補修が行われています。**

- | | |
|--|---|
| Q 「過去 1年間に点検や管理・補修を行った回数」 | A 「1~3回」 55%、「4回以上」 43% |
| Q 「点検や刈り払いを、定期的に行うことについて」 | A 「重要(必要)」 92% |
| Q 「破損があれば補修することについて」 | A 「重要(必要)」 100% |
| Q 「点検等の実施時期」 | A 「決まった時期に定期的」 51%、「不定期」 49% |
| Q 「点検等の実施者」 | A 「役員等決まった人」70%、「被害者」 16% |
| Q 「点検等の範囲の分割しているか」 | A 「分割している」48%、「分割していない」 52% |
| Q 「点検等の範囲の分割や作業の当番制について」 | A 「重要」55%、「どちらとも言えない」 34% |
| Q 「点検等の人件費」 | A 「農家組合等から支出」42%、「無償」 58% |
| Q 「点検等の資材費」 | A 「農家組合等から支出」77%、「無償」 23% |
| Q 「集落内「非農家」の協力を得ることについて」 | A 「重要(必要)」 50%、「重要でない不要」 16% |
| Q 「将来の点検や管理のために必要なことについて」 | A 「隣接集落の連携」27%、「資金積み立て」30%
「非農家協力を得る努力」27% |
| Q 「金網柵ができた直後に 被害は減りましたか？」 | A 「減った」 92%、「変化無し」6%、「増えた」 2% |
| Q 「金網柵ができた直後に比べて昨年(2016年)の 被害は減りましたか？」 | A 「減った」 64%、「変化無し」 21%、「増えた」15% |

point

- * 「点検」: 被害を受ける前に実施しましょう。植え付け前と収穫前が効果的。
- * 「点検の重点箇所」: 農地と森林、農地と水路が接する場所。森林内。
- * 「管理」: 地際などの隙間を無くし、周囲の除草や絡まった蔓の除去が被害防止に繋がります。
- * 「補修」: 動物の侵入等による破損は見つけ次第、補修しましょう。
- * 「点検」「管理」「補修」は「無理なく」「地域に応じたやり方」で「継続」する、ことが柵の効果を持続し、被害防止に繋がります。
- * 非農家、隣接集落との連携など、多くの人と協力すると共に、必要経費を準備することも重要です。

